

## この章のまとめ

theには「他のモノと区別する」力があります。「話し手同士の了解」の成立つモノ、1つしかないモノ、対置されるモノにtheを付けるのは、このためです。

この章では、次のようなtheの使い方を取り上げました。

- ❑ the moonのような1つしかないものに付ける。
- ❑ 朝 (in the morning)、昼 (in the afternoon)、晩 (in the evening) のような対置されるものに付ける。
- ❑ take ~ by the arm (～の腕をつかむ / 取る) で表されるような、身体全体の中の一部に付ける。
- ❑ the Amazonなど、川の名前に付けて境界をイメージさせる。
- ❑ the United States, the Alps, the Brownsなど、複数のモノをまとめて統一体を作る。
- ❑ the Golden Gate Bridgeなど、普通名詞を含む固有名詞にはtheを付ける
- ❑ the Edo periodのような時代区分やthe 1920s (1920年代) のような「年代」を表す。
- ❑ the French Revolutionのような歴史上の出来事に付ける。
- ❑ by the month (1ヵ月単位で) のような単位に付ける。
- ❑ The lion is the king of the beasts. のような「ライオンという種全体 (総称)」を表す。

これらは、バラバラの使い方・知識に感じられますが、theの基本的な考え方にしただって使われています。ですから、theの考え方にあてはまらない場合、たとえば「唯一」ではない場合にはonlyにtheを付けませんし、月が2つ以上ある場合にはa moonとなり、theを付けないこととなります。

## 第3章 aを使う表現

## (1) 「狭義のa」から「広義のa」へ

一番基本的なaの使い方から、もう一歩進んでaを理解できるようになるためには、次の2つのステップが必要です。

## 【第1のステップ】

第1章でお話したようなaの基本的な意味を、さまざまなaの使い方の中で応用していくステップです。

このステップでは、a Mr. Smithというように人名にaを付けたり、birds of a feather (同じ羽の鳥) のように「同じ」の意味になったり、さまざまなaの使い方が出てきます。これらは、細かい複雑なルールのように感じられますが、どのルールも、aの基本原則である、次の3つを中心にもっています。

- 数えられる名詞が1つで、不特定のときに付ける。
- リンカクを描く。
- 同じ種類のモノがいくつもあるうちの1つを示す。

## 【第2のステップ】

aの基本的な使い方を離れた使い方をマスターしていくステップです。

さまざまな英語表現に接していると、中学で習った一番単純な例よりも、ずっと広く自由にaが使われるのを目にします。たとえば、**a nap** (うたたね)、**a break** (休憩) のように、常識的には数えられるとは思われない意味の名詞にaを付ける。さらには、**a few** (いくつか) のように、複数なのにaを付ける表現まであります。